

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)熊本菊陽町マンション	階数	地上9F		
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字津久礼字	構造	RC造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	192 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年2月10日		
敷地面積	2,930 m ²	作成者	大賀 博美		
建築面積	836 m ²	確認日	2022年2月10日		
延床面積	5,751 m ²	確認者	大賀 博美		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 0.7

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

72%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点												
		64												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	66.7	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td>★★★★★</td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td>★★★★</td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td>★★★</td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td>★★</td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td>★</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上	★★★★★	80点以上100点未満	★★★★	60点以上80点未満	★★★	40点以上60点未満	★★	40点未満	★
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上	★★★★★													
80点以上100点未満	★★★★													
60点以上80点未満	★★★													
40点以上60点未満	★★													
40点未満	★													
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	47.5													
【重点事項4】 循環型社会の実現	74.2													

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本菊陽町マンション	階数	地上9F
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字津久礼字	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	192 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年2月10日
敷地面積	2,930 m ²	作成者	大賀 博美
建築面積	836 m ²	確認日	2022年2月10日
延床面積	5,751 m ²	確認者	大賀 博美



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 72%
③上記+②以外の 72%
④上記+ 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価 **評価点 = 64**

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進 **評価点 = 66.7**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 65.0**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 47.5**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 74.2**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・外観は周囲と調和するよう、アースカラーを使用する

Q1 室内環境

- ・庇とカーテンによりグレアの対策をする
- ・内装仕上材、天井裏仕上材はF☆☆☆☆を使用する
- ・換気量は、建築基準法における換気量の1.4倍以上

Q2 サービス性能

- ・住戸居室の天井高2.55m
- ・階高2.9m
- ・外壁塗料は防汚性の高いものを使用する
- ・共用部の床は防汚性の高い建材を使用する

Q3 室外環境（敷地内）

- ・防犯性を高めるため、敷地周囲のフェンスは見通しの良いものを使用する

LR1 エネルギー

- ・断熱等性能等級：等級3
- ・BEI：1.01

LR2 資源・マテリアル

- ・住戸のシートフローリングは、エコマーク商品を使用する
- ・ODP=0、GWPが小さい断熱材を使用する
(吹付硬質ウレタンフォームA種1H)

LR3 敷地外環境

- ・ライフサイクルCO2=72%
- ・駐輪場、駐車場ともに適切な量を計画する

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本菊陽町マンション

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境			0.40		-				3.0
1 音環境		1.0	0.15	1.0	1.00				1.0
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.50	1.0	0.50				
1.2 遮音		1.0	0.50	1.0	0.50				
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30				
2 界壁遮音性能		-	-	1.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20				
1.3 吸音		-	-	-	-				
2 温熱環境		2.0	0.35	3.0	1.00				2.7
2.1 室温制御		2.0	1.00	3.0	1.00				
1 室温		-	-	-	-				
2 外皮性能		2.0	1.00	3.0	1.00				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		-	-	-	-				
2.3 空調方式		-	-	-	-				
3 光・視環境		3.2	0.25	3.7	1.00				3.5
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.4	0.50				
1 昼光率	住居部:2.6%	3.0	0.60	5.0	0.50				
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50				
1 昼光制御	住居部:庇+カーテン	2.0	1.00	4.0	1.00				
3.3 照度		3.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御	共用部:自動照明制御	5.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		3.6	0.25	4.0	1.00				3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	建築基準法を満たす、70%以上の面積	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		3.0	0.40	4.0	0.38				
1 換気量	建築基準法における換気量の1.4倍以上	3.0	0.50	5.0	0.33				
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/7以上	-	-	4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				2.6
1 機能性		2.5	0.40	2.2	1.00				2.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	2.0	0.60				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応		-	-	2.0	1.00				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40				
1 広さ感・景観	天井高2.5m	-	-	4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50				
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材の使用 等	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30	-	-				2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		2.7	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用	4.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.2	0.30	3.1	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり				-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高:2.9m	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック・PF管使用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック・PF管使用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			2.9	0.50	-	-	2.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ニドムエコ(シートフローリング)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	吹付硬質ウレタンフォームA種IH	4.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率72%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐車スペースの確保 等	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインの過半を満足、広告物照明なし	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本菊陽町マンション

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		64
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				66.7	0.40	26.68
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				47.5	0.20	9.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数